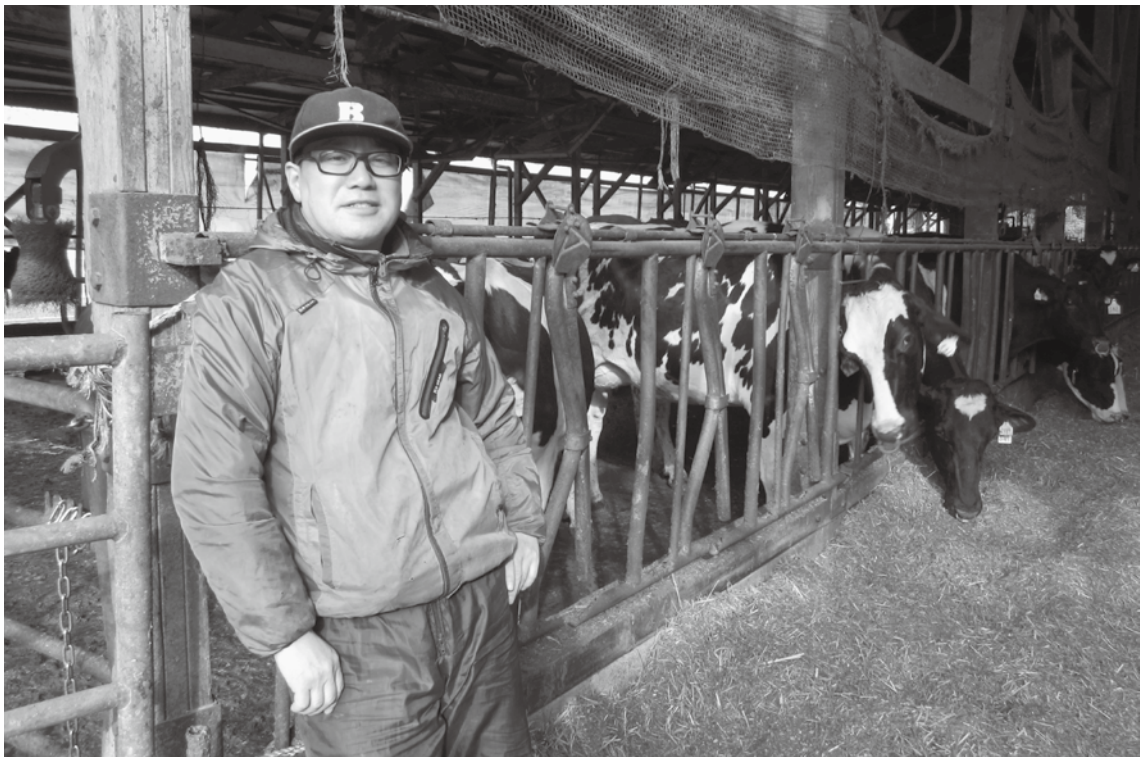
平成31年2月25日発行　第七十巻第二号

岡山畜産便り

2019　2



高山　和夫さん（酪農）

もくじ

耕畜連携による飼料用トウモロコシの推進について
岡山県農林水産部畜産課 …… 1

〔県民局だより〕
東備地域の畜産を盛り上げています
～東備畜産研究会の活動報告～
備前県民局畜産班 …… 3

〔家保のページ〕
初期症状に脱毛が見られた黒毛和種子牛のビタミンＡ過剰症
津山家畜保健衛生所 …… 5

〔技術のページ〕
混合堆肥複合肥料の普及に向けた取り組み
岡山県農林水産総合センター畜産研究所
環境研究グループ …… 7

〔畜産現場の声〕
これまでとこれから
高山　和夫 …… 9

〔共済フレッシュさんの声〕
北部基幹家畜診療所　椿　修 …… 10

〔流通業界の声〕
私たちにできること
全農岡山県本部畜産部食肉販売課 …… 11

北海道乳牛市場の初妊牛価格の推移
おかやま酪農業協同組合　事業本部流通課 …… 12

県産豚肉の地域ブランド化に向けて
（一社）岡山県畜産協会 …… 13

家畜衛生管理センターの死亡牛搬入状況及び死亡牛のＢＳＥ検査対象牛の変更について
（一社）岡山県畜産協会 …… 14

〔お知らせ〕
平成30年度和牛シンポジウムの開催について
和牛シンポジウム実行委員会 …… 14

平成30年度畜産便り総目次 …… 15

GEA　ORION

省力化が、強い経営力に。

搾乳、給飼をはじめとした、拘束時間の長い「作業」。

「もっと給飼の負担を軽くするには」
「発情を見逃さないようにしなくては」
「あの時、病気に気づいていれば」

多くの作業の省力化を可能にすることで、労力を軽減し
時間を生むことが、理想の経営をさらに引き寄せる。

自動給飼機
ミックスフィーダー

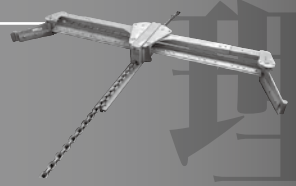
精密飼養管理ソフト
デーリィプランC21

自動積載フィードストッカー
GM17

繁殖管理メッセンジャー
カウスカウト

自動エサ寄せ機
FRone

自動糞尿排出装置
バーンスクレーパー



マルチボックス搾乳ロボット
MI ONE（エムアイ ワン）

西日本オリオン株式会社

本　社：〒812-0006　福岡市博多区上牟田1-13-14　TEL.092-477-8480
営業所：岡山・瀬戸内・津山・広島・山陰・大阪・福岡・大分・熊本・人吉・
鹿児島・鹿屋・種子島・沖縄

耕畜連携による飼料用トウモロコシの推進について

岡山県農林水産部畜産課

1　県内の自給飼料の生産状況

県内の自給飼料の作付面積は、図１のとおり平成元年には約9,800haありましたが、畜産農家戸数の減少や高齢化・飼養規模拡大による労働力不足等により平成20年には約4,000haまで減少しています。その後は、飼料用稲（飼料用米及び稲WCS）の作付が急速に拡大したことに伴い、作付面積は増加に転じ、平成29年は約5,800haとなっています。

また、稲WCSの取組拡大に伴い、主に収穫作業を担うコントラクター組織が県内各地域で設立され、自給飼料の増産に大きな役割を果たしています。

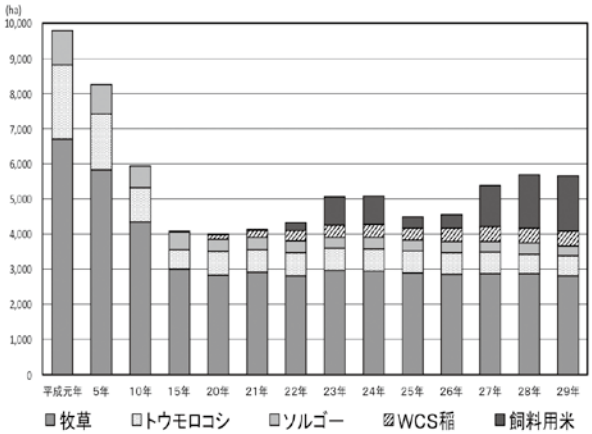


図1　県内の飼料作物作付面積の推移（作物統計より）

2　耕畜連携による取組のメリット

トウモロコシは高収量・高栄養の優良な飼料作物ですが、他の飼料作物と同様に県内での作付面積は年々減少しています。笠岡湾干拓地では酪農家が組織するコントラクターによる大規模作付が行われていますが、平成29年の作付面積は567haと平成10年の半分程度まで減少しています。

近年の稲WCSの取組等により耕畜連携による飼料生産の気運が醸成され、加えて県内のコントラクターで、青刈りトウモロコシの収穫にも対応する汎用型飼料収穫機の導入が進んできたことから、耕種農家による飼料用トウモロコシ生産に向けた環境が整ってきました。

飼料用トウモロコシは、畜産農家にとっては高栄養な飼料が安定的に利用でき、耕種農家にとっては水稲と作業時期の重複が少なく（図２）、労働分散が可能な作物です。また、収量を確保できれば、主食用米と遜色のない収益（表１）が見込まれるなど、耕畜双方にメリットがあると考えられます。さらに、これまで稲WCSの収穫作業を中心に行ってきたコントラクターにとっても、既存の収穫機を活用した収穫作業の受託により、作業時期の延長、労働分散や受託面積の拡大を図ることが可能になります。

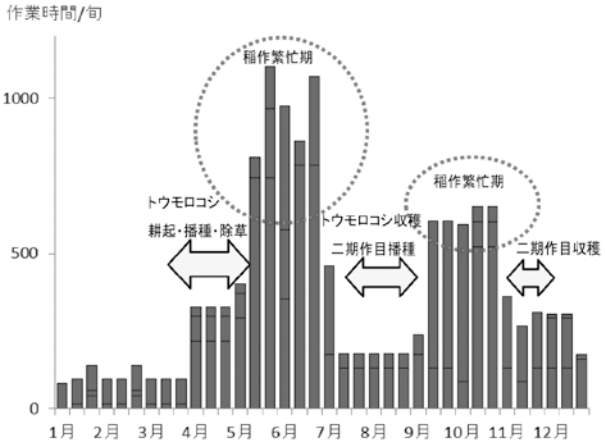


図2　県南部での稲作経営の作業時間と飼料用トウモロコシ（二期作栽培）の作業時期（例）

3　県内での推進状況

県では、水田において耕種農家が飼料用トウモロコシを生産し、畜産農家へ供給す

表1　水田での飼料用トウモロコシの収益モデル
（10a当たり）

費　目		金　額
収　　量　　(kg)	①	5,000
単　　価　(円／kg)	②	17
農産物収入　　(円)	③ (①×②)	85,000
交 付 金　　(円)	④	35,000
粗 収 入　　(円)	③+④	120,000
経 営 費　　(円)	⑤	74,729
所　　得　　(円)	⑥ (③+④−⑤)	45,271
労 働 時 間　　(時間)	⑦	10.0
1時間当たり所得　(円)	⑥／⑦	4,527

※県内での耕畜連携による取組事例調査（平成27～28年度）より

る体制づくりを支援するため、平成27年度から「水田における飼料作物生産実証事業」を実施し、さらに平成29年度からは取組の拡大を図るため、大型耕種農家をターゲットにした「耕畜連携による水田での『飼料用トウモロコシ』の実証事業」を実施し、各県民局が中心となり栽培実証を行っているところです。また、平成29年度には、耕種農家に向けた栽培啓発チラシを作成・配布し、水田での飼料用トウモロコシ栽培のメリットをPRしています。

4　県内での取組状況

平成30年の県内での作付状況は表２のとおりで、４市町でのべ34.3haの作付があり、県内８戸の畜産農家が利用しています。

表2　県内での耕畜連携による取組状況
（平成30年）

場所	戸数	作付面積（のべ）	利用農家数
岡 山 市	6	26.7ha	酪　農　4 肉用牛　1
津 山 市	1	1.7ha	酪　農　1
久米南町	1	0.9ha	酪　農　1
奈 義 町	3	5.0ha	酪　農　1
合　　計	11	34.3ha	8

岡山市では、平成27年度の県事業の実施に合わせて取組が始まり、翌年からは二期作栽培にも取り組んできました。米麦を基幹作目とする大型耕種農家６戸（うち１戸はコントラクター部門を含む）が省力で収益が見込める作目として飼料用トウモロコシに取り組んでいます。平成30年度は、二期作栽培での２作目の収量・品質の確保を図るため県の「畜産技術普及推進事業」により、不耕起播種技術の現地実証を備前県民局が行っています。

不耕起播種機による播種作業

県北部では、久米南町で耕種農家による飼料用トウモロコシ作付が平成25年から行われてきましたが、平成30年からは新たに津山市と奈義町でも取組が始まり、美作県民局により、実証ほが設置されています（平成31年１月号）。奈義町では、「水田活用の直接支払い交付金」の産地交付金の対象にもなり、新たな水田転作作物として拡大することが期待されています。

県では水田農業の新たな作目として飼料用トウモロコシが定着するよう、関係団体とも協力して、引き続き耕畜連携による安定した生産供給体制の構築に向けた取組を続けていくこととしています。

〔県民局だより〕

東備地域の畜産を盛り上げています
～東備畜産研究会の活動報告～

備前県民局畜産班

1　はじめに

備前市、赤磐市、和気町から成る東備地域では、酪農や肉用牛、養鶏などの畜産業が営まれており、その経営形態も家族経営から大規模経営、放牧主体の経営など多様です。今回は、その東備地域の畜産農家で結成されている東備畜産研究会について紹介します。

2　東備畜産研究会とは

東備地域と岡山市東区瀬戸町の畜産農家10戸で構成されています。会員の飼養形態は、酪農・和牛繁殖・肥育・採卵鶏と様々ですが、研究会員が相互に情報交換や経営・技術の向上を図り、地域農業の振興と発展に寄与することを目的に活動しています。

3　今年度の活動について

毎年、年度初めの総会で、活動計画について意見交換を行っています。今年度は、牧場消毒や放牧酪農での排水対策、先進地視察研修、また、当研究会の会員が生産しているブランド牛肉のPR販売などに取り組む計画を立てました。

（写真1）総会の様子

(1) 牧場消毒

畜産業を行う中で、衛生害虫の発生は切り離せません。会員から衛生害虫の防除に取り組みたいとの声があり、牧場消毒を実施することとしました。消毒は、家畜保健衛生所の協力のもと、７月と10月の２回実施しました。

（写真2）牧場消毒

また、消毒の効果を検証するため、消毒以外にも牧場に捕獲トラップを設置し、衛生害虫の発生数や発生場所の調査も行いました。調査結果について、総会等で報告し、より効率的な対策につなげていく予定にしています。

(2) 放牧酪農での排水対策

会員には、放牧酪農を実践している農家がいますが、パーラー排水の処理が課題となっていました。そこで、研究会では、微生物資材と曝気処理を組み合わせた浄化処理装置を設置し、パーラー排水の浄化処理試験を行うこととしました。今年度は、処理水の水質調査等、浄化装置の効果検証に取り組みました。今後、装置の能力や課題についてさらに把握し、適切な処理ができるよう改良していく予定です。

（写真3）浄化処理装置

（3）先進地視察研修

毎年、会員の資質向上と情報収集を図るため、先進地の視察研修を行っています。今年度は「子牛の飼養管理」や「大規模農場での経営」をテーマに農事組合法人伍協牧場を訪問しました。飼養管理や飼料の給与方法などの説明に、会員も積極的に質問を行い、有意義な先進地視察研修となりました。

（写真4）先進地視察研修

（4）ブランド牛肉の試食販売

東備畜産研究会では、地元ワイナリーから産出されるワイン粕を牛に給与して生産した牛肉を「東備ワインビーフ」の名で販売する取り組みを行っています。

この取り組みはH24年から始まり、研究会では、関係機関の協力のもとワイン粕の飼料化や牛への給与試験を行ってきました。その結果、ワイン粕飼料は牛の嗜好性が良く飼料として十分利用でき、肉質や増体への影響についても一般飼料と比べて遜色ないことを確認することができました。

（写真5）東備ワインビーフ

平成28年からは“あかいわ祭り”に出展し、東備ワインビーフのPR販売や試食にも取り組んでいます。今年度、取り組み紹介や牛肉の試食販売を行い、大勢の方にPRができました。

また、試食の際に併せてアンケート調査を行った結果、価格は“高い”という意見を多く頂きましたが、味については、ほとんどの方が“美味しい”と答え、高評価を得ることができました。また、牛肉の購入者の中には、３年連続で買いに来てくれたリピーターもいました。

（写真6）あかいわ祭りへ出展

４　おわりに

備前県民局畜産班は、今後も東備畜産研究会の活動を支援し、会員農家の経営安定の一助につなげていきたいと思います。

〔家保のページ〕

初期症状に脱毛が見られた黒毛和種子牛のビタミンA過剰症

津山家畜保健衛生所

1　はじめに

ビタミンA（以下VA）過剰症は、その名のとおり、VAを過剰に摂取した際に生じる一種の中毒疾病です。発育に障害を与えるため、子牛で特に問題になります。

今回、黒毛和種子牛の事例に遭遇したので、その概要を紹介します。

2　調査の経緯

平成30年８月２日に担当の獣医師から「生後２週齢程度で脱毛する事例が続いているので調査してほしい」との依頼がありました。このとき脱毛していた子牛は２頭おり、それぞれを調査牛A、Bとしました。

▸**調査依頼**（H30.8.2）

「生後2週齢程度になると脱毛する事例が続いている」

▸**調 査 牛**

調査牛Ａ（黒毛和種）

H30.7.13生　<20日齢>（♂）生時体重：30kg

稟告：2～3日前から脱毛症状が急激に悪化

調査牛Ｂ（黒毛和種）

H30.6.11生　<52日齢>（♂）生時体重：33kg

稟告：生後2週間程度で脱毛したが、現在は回復傾向。

3　発症農場での調査

脱毛発症牛の調査

＜調査牛Ａ　脱毛の状況＞

大腿部内側

包皮周辺

調査牛は人工哺育されており、その飼養環境は良好でした。また、発育、栄養状態などにも問題は見られませんでした。

調査牛Aの脱毛は、後駆の大腿部内側から腹部の包皮周辺にかけて激しく、両側性に発症していました。その症状や飼養管理の状況、複数頭で同様の発症がある事から、原因は感染症や低栄養性などではなく、何らかの中毒による脱毛と考えました。

4　VA製剤の投与状況

脱毛を発症する中毒の１つにVA過剰症があります。そこで、VA製剤の投与状況を聞き取り調査すると

「子牛に対して、週に１回、VA製剤をキャップ一杯を代用乳に混ぜて給与している。」

との事でした。

この農場には、自家産で自然哺乳されている子牛と、導入などで人工哺育されている子牛がいます。今回脱毛していた調査牛A、Bはいずれも人工哺育され代用乳が与えられていました。一方、自然哺乳されている子牛には脱毛は見られませんでした。

こうした状況から人工哺育によるVA製剤の過剰投与が強く疑われました。

5　VA製剤の投与量

調査の結果、VA製剤の投与量は、子牛の１日要求量の300倍の量であり、連続投与で中毒になるとされる投与量でした。

ビタミンA製剤の給与量調査

キャップ 1杯（＝10cc）800,000 IU ＞ 子牛（40kg DG1.0以上）1日要求量 2,640 IU（日本飼養標準　肉用牛）

1日要求量の **300倍**

2週齢で脱毛
＝ ２回目の投与後に脱毛
＝８００,０００IU×2回
＝1,６００,０００IU

投与されていた製剤
ビタミンA　80,000IU/ml

＊ビタミンA過剰症は、1日要求量の100~1000倍を連続投与すると中毒となるとされている。

６　牛ハイエナ病の子牛

調査を進めていると、生後約２週齢で脱毛していた子牛がおかしなことになっているとの報告があり、追加の調査をしました。調査牛Cとします。

調査牛Cの背は湾曲し、後駆は小さく、変形していました。これは、VA過剰投与によって生じる「牛ハイエナ病」の典型的な体型です。これらの調査結果から、調査牛A、Bの脱毛もVA過剰症と判断しVA製剤の投与中止を指示しました。

７　２週間後の調査牛A、B

２週間後の８月15日に追跡調査を行うと、脱毛症状は改善し、毛も生え始め、普通の子牛の様に見えました。しかし、脱毛した子牛の予後は不明のため、現状把握のための血液検査を実施しました。

血液検査結果を次の表に示します。血中VAの値は正常値でしたが、脱毛していた調査牛A、BからはVAパルミテート（レチニルパルミテート）が検出されました。

血液検査（8月15日採血）

検査項目		調査牛A（33日齢）	調査牛B（55日齢）	調査牛C（184日齢）	未投与（85日齢）
T-cho	mg/dl	210	204	69	134
GOT	U/l	46	78	95	67
GGT	U/l	62	30	31	18
BUN	mg/dl	13.3	11.4	13.3	15.1
CRE	mg/dl	0.9	0.8	0.9	0.7
Ca	mg/dl	12.6	11.5	12.7	11.2
P	mg/dl	9.0	9.6	12.0	9.9
VA	IU/dl	68	69	108	88
VAﾊﾟﾙﾐﾃｰﾄ	IU/dl	52.7	30.9	0	0
＜症 状＞		脱 毛	脱 毛	ハイエナ病	正常（自然哺乳）

VAパルミテートの検出 ＝ 血液検査におけるVA過剰症の確定

これはVA製剤が過剰投与されたときのみ検出される成分です。これにより、血液検査からも調査牛A、BがVA過剰症と診断出来ました。（なお、VAパルミテートは過剰投与後１ヶ月程度までしか検出されないと言われており、調査牛Cから検出されないのはこのためと考えられます。）

８　３ヶ月後の調査牛A、B

３ヶ月後（11月21日）の調査牛A、Bは、共に発育不良となっていました。特に調査牛Aの十字部高は、体高よりも低く、見た目にも体型変形が始まっているように見えました。

９　まとめ

今回の事例では、わずか20ccのVA製剤の投与でVA過剰症による脱毛が発症していました。成牛へVA製剤を投与する感覚とは異なり、子牛（特に哺乳中）では、慎重に投与する必要があると感じます。

経口のVA製剤の多くはA飼料であり、様々な商品が出ています。VA製剤は、誰でも利用（購入）できますが、その危険性は十分に理解されていないと考えます。

農家の方が大切な子牛のためと給与したVAも、過剰投与となると、一転して重篤な中毒疾病の原因物質です。

VA製剤を利用する際には、給与量を確認し適量となるように注意して下さい。

〔技術のページ〕

混合堆肥複合肥料の普及に向けた取り組み

岡山県農林水産総合センター　畜産研究所　環境研究グループ

混合堆肥複合肥料は平成24年に公定規格が設けられた新しい肥料です。これにより、家畜ふん堆肥（以下、堆肥）を普通肥料の原料として使えるようになり、堆肥の土づくり効果と化学肥料の高い肥効を併せもつ肥料の生産・流通が可能となりました。

現在、県内では土壌中の有機物含量を示す腐植が不足し、将来の生産性の低下が懸念される圃場が増えています。

そこで、当研究所と農業研究所、肥料メーカーの三興株式会社の共同研究により、有機物と肥料成分を同時に供給可能な新しい肥料を開発しましたので紹介します。

1　キャベツ用混合堆肥複合肥料の開発

県内有数のキャベツ産地である牛窓地区では、散布労力の不足などを理由に長年にわたって堆肥などの有機物の施用が行われず、地力の低下が懸念される圃場が増えています。こうした状況を改善するため、有機物を豊富に含む堆肥を現物あたり51％配合しつつ、全量基肥施肥（＝１回の基肥施肥のみで追肥が不要な施肥体系）により施肥作業の省力化が可能なキャベツ用肥料を開発しました（図１）。この肥料を牛窓地区で現地栽培実証試験に供した結果、慣行の分施体系と比較して遜色のない生育・収量が得られました（表１）。

図1　キャベツ用混合堆肥複合肥料
（商品名：キャベツ一発堆肥入り037）

表1　キャベツ（彩ひかり）の生育・収量

	定植約1ヶ月後	収穫時		
	最大葉長 (cm)	収量 (t/10a)	全重 (kg/株)	結球重 (kg/株)
開発肥料	30.1±0.1	8.9±0.5	2.6±0.2	1.7±0.1
慣行分施体系	29.6±0.1	9.0±0.3	2.7±0.1	1.7±0.1

※いずれの項目についてもt検定による有意差なし。

しかしながら、流通を見据えた２年間の長期保存試験を実施したところ、保存中に肥料のpHが上昇し、開封時に高濃度のアンモニアガスが発生する問題が生じました。そこで、改善策の検討を行った結果、肥料製造時の低水分化によりアンモニアガス濃度の低減が可能であることが明らかとなりました（図２）。

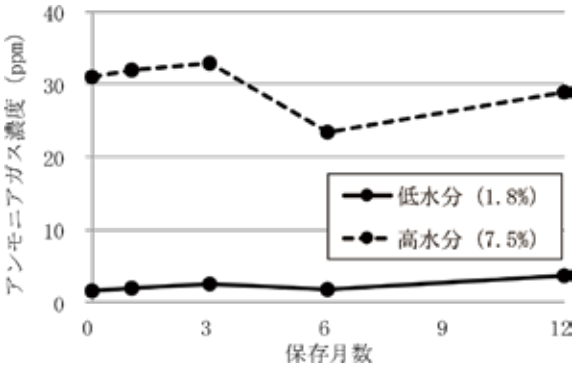


図2　キャベツ用混合堆肥複合肥料の
改善試験（30℃・30分静置条件）

この試験結果などを基に、この肥料の水分を約５％に設定し、昨年12月から生産を開始しました。現在、今夏からの販売を目指して準備を進めているところです。

２　水稲用バルクブレンド肥料の開発

県内の水田土壌はリン酸が適正値を超えている一方で、腐植が不足傾向な圃場が増えています。そこで、有機物を豊富に含む堆肥を原料に用い、低リン酸型で、施肥作業の省力化のために側条施肥田植機による全量基肥施肥が可能な肥料の開発を行いました（図３）。

この肥料は、まず、堆肥を現物あたり30％配合した直径約2.5mmのペレット状の混合堆肥複合肥料を造粒し、これに窒素肥効パターンが異なる２種類の被覆尿素肥料を65：25：10で混合して指定配合肥料（バルクブレンド肥料）を製造しました。

図3　水稲用バルクブレンド肥料
（商品名：エコペレ水稲中生一発221）

※黒っぽいペレット状の粒が混合堆肥複合肥料、白い球状の粒が被覆尿素肥料。

この肥料は、側条施肥田植機を用いた散布試験で、既存の粒状肥料と遜色のない精度で施肥が可能であることが確認されました。また、県南での現地栽培実証試験では、既存の全量基肥肥料と遜色のない収量が得られました（表２）。

表2　水稲（ヒノヒカリ）の収量

	精玄米収量 (kg/10a)	もみ数 (粒/m^2)	千粒重 (g)	玄米タンパク (%)
開発肥料	627	30,359	23.2	7.9
慣行肥料	616	30,563	23.0	8.0

※両試験区とも追肥なしの全量基肥施肥栽培。

また、この肥料については、長期保存試験で問題が認められなかったことから、本年作での普及に向けて生産・販売の準備を進めているところです。

３　今後について

現在、混合堆肥複合肥料は全国で67銘柄が登録されています（平成30年12月25日時点）。しかしながら、その認知度はまだまだ低いのが実情です。混合堆肥複合肥料が普及し、既存の化成肥料などと置き換わるようになれば、畜産業界にとっては堆肥を肥料原料として販売する新たな販路の開拓が期待されます。

当研究所では、良質堆肥の利用促進のため、引き続き混合堆肥複合肥料の普及に向けた取り組みを継続していきますので、今後の成果に御期待ください。

【謝辞】本研究は、農林水産省委託プロジェクト研究「生産コストの削減に向けた有機質資材の活用技術の開発（平成27～31年度）」で実施しました。

今回紹介した肥料についてのお問い合わせは、三興株式会社までお願いします。
電話：080-8329-7516（担当：西江）

（水木　剛）

〔畜産現場の声〕

これまでとこれから

高山　和夫

私が酪農を始めてから現在まで28年が経ちました。父、私、従業員、アルバイトの４名で日々の経営に取り組んでいますが、父は80歳であり、実質3.5人で取り組んでいます。

私の住んでいる県北の勝央町は、以前は50件もの酪農家がいました。数頭だけ飼養する小さな酪農家も多く、当時はバルククーラーも高価だったため、地区の共同集乳所に日々牛乳を集め、集荷してもらっていました。小さい頃の私も我が家で搾った牛乳を乳缶に詰め、父に付いて共同集乳所へ運んでいったのを覚えています。隣の地区では牛乳屋が多く、地域酪農組合の冠名をつけた「かつらく牛乳」という牛乳があり、私もよく飲んでいました。そんな酪農家の件数も１年に１戸のペースで減っていき、現在私の地区では４戸ほどとなりました。

これまで酪農に取り組んできた中で、私が大切にしてきたのは、今いる牛の１頭１頭を１日でも長く飼養することです。その中でも病気との闘いをテーマに、日々取り組んでいます。

牛が病気にならないようにするには、まず餌にこだわることが重要であると考えます。粗飼料一つをとっても、どこのメーカーのものを使うのか、産地はどこのものなのか、草の長さは良いかなど、主だったところにこだわってきました。こだわった飼料、品質の良い飼料にすれば、当然コストは高くなります。しかし、私の経験上、飼料にこだわらず、品質無視のコスト削減をしてしまうと、のちのち病気や肢の不具合、最悪廃用につながります。価格が高くても安定した良質の粗飼料の方が牛の喰いが良く、目標の量までしっかり喰い込んでくれるほうが、しっかり見返りが取れると感じます。昨年は酷暑でしたが、しっかり喰い込んでくれたおかげで、峠といわれる９月、10月も乗り切ることができました。「こだわった餌は損をしない。」と個人的には実感しています。同時にビール粕を利用し、コストダウンへの取り組みも合わせて行っています。

肢のケアにも注力し、月１回の削蹄を大切にしています。私の牛舎はフリーストールスタイルで、蹄への負担が多い面があります。股裂きなどのリスクもあるため、床の“はつり”も定期的に行っています。立てなくなってしまうリスクを軽減することも、非常に重要であると考えます。

酪農において、大切にすべきことはたくさんあると思います。私の場合は「病気にならない牛づくり」です。病気にならない牛づくりは、乳量や乳質低下の防止、繁殖成績の向上に大きく寄与すると私は考えます。また、私の酪農経営スタイルで最も好手であるとも考えます。酪農は本当に、毎日何か問題が起きる仕事だと痛感します。気づけば股裂きが起きた牛が居たり、元気だった牛が翌日には死んでしまっていることもあります。しかし、これまで取り組んできた中で培ってきた「病気にならない牛づくり」という、自分のテーマにぶれることなく、これからも日々の酪農経営に取り組んでいきたいと思います。

〔共済フレッシュさんの声〕

北部基幹家畜診療所　椿　修

初めまして、北部基幹家畜診療所の椿と申します。共済のフレッシュさんの原稿を書いてます、51才のオールドルーキーです。前職は北海道の後志（しりべし）農業共済組合というところで同じ様に臨床獣医をしていました。後志地方は北海道の南西部に位置し、1市13町6村で構成され、総面積は4312.15㎢で全道の5.2％に当たり、山梨県や福井県とほぼ等しい面積です。農業は水稲、畑作物、野菜、家畜と幅広く生産しており、北海道農業の縮図と呼べる特徴があります。畜産的には過疎地で乳牛の雌等で9830頭、肉用牛等で2498頭、一般馬30頭を11人の獣医師で家畜の診療と人工授精を行っていました。年間の手術頭数は150頭程度でした。管内には支笏洞爺国立公園に指定された霊峰羊蹄山（1898m）がそびえており、その麓の倶知安町で暮らしておりました。道内でも屈指の豪雪地帯で平均積雪量は195mに達し、過去最高は312mの記録があるそうです。大型スキー場があり、海外からの長期滞在者で賑わい、スキーシーズンになると外国人が増えて町民の10人に1人が外国人となり、町内のスーパーとかで外国人がいるのが普通となります。

移住者も増え、小学校のクラスには必ずハーフの児童がいる状態です。また、パウダースノーを求めてスキーヤーが外資を呼び込み、不動産投資が過熱し、小さな田舎町でありながら、地価上昇率が日本一になり、全国ニュースでも取り上げられました。スキーだけではなく、登山、スキューバーダイビング、シーカヤック、乗馬、ラフティング、自転車ロードレースなどが楽しめるリゾート地でした。千歳空港から3時間で行けるので北海道スキーをお考の方は候補地の一つに考えてみて下さい。バックカントリーでも有名ですので。

北海道と岡山の違いと言えば、向こうでは牧草調製が春の終わりから初夏にかけての風物詩であり、秋にはデントコーン調製があり、その後1年の命運がかかっています。その時期はその話題で持ちきりになり、あと一日で巻けたのになどと…雨にはとても敏感になります。自家生産粗飼料と購入粗飼料の違いでしょうか、生産者さんによっては3産以上の分娩後必ず、カルシウム剤を投与している状態でした。（北海道でもこの地域だけかもしれませんが）中々牧草の更新とか施肥にも費用がかかるので充分に出来ていなかったせいで良質の牧草給与が出来なかったのが原因なのでしょうか。岡山では購入飼料だから成分は安定していて、少ないのでしょうか？カルシウムをうつ機会は激減しました。分離給与しているところの飼料メニューも比較的単純でロール、デントコーンに配合と蛋白飼料が基礎となり、あと何品か加えていくのが主流でした。それ故に、粗飼料の品質で乳量に差がでる状態でした。また、人工授精も行っていたので仕事の大半は授精業務で占めていました。結構、授精業務は面白く、種雄牛に詳しくなり、馬とまではいきませんが血統にも詳しくなりました。こちらの黒毛和種種雄牛はこれから勉強しようと思っております。自分が授精した牛が受胎すると嬉しかった事を思い出します。岡山の事はまだまだ分からない事が多いのですが今度は北海道の知り合いに岡山の良さや北海道との違いを伝えられたらいいなと思っています。その為に皆さんに色々とご教授願いたく思っています。これから宜しくお願いします。

〔流通業界の声〕

私たちにできること

全農岡山県本部畜産部食肉販売課

私たちは、全農グループの経営理念である『生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋』になるべく、日々業務に励んでいます。

畜産部食肉販売課においては、肉牛及び肉豚の集荷・加工・販売が主な業務となります。県内の生産者が大切に育てた牛や豚を適正な価格で買い取り、枝肉から部分肉、あるいは包装肉へと形を変えて県内の精肉店、JA店舗、量販店等へ販売しています。

牛も豚も枝肉で仕入を行い、委託先加工場にてカットし、部分肉の状態で本会へ入荷されます。大部分は部分肉のまま流通しますが、販売先の中には精肉加工場を持たない店舗もありますので、本会ミートセンターで包装肉加工を行い最終製品にしたものを納品するケースもあります。

本会の強みは「岡山県産」の商品をメインに扱っていることです。“地産地消”のニーズに応える形で、岡山県産の牛肉及び豚肉を広く供給させて頂いています。

販売においては、生産者が再生産できる価格で仕入れられる価格での販売を念頭に置いており、生産者が安心して生産に集中できる仕組み作りを目指しています。

近年では「岡山県産」だけではなく、各地域の銘柄（ブランド）や生産者を前面に出すことで、商品に付加価値をつけています。時には生産者と販売先の間を取り持ち、双方が密な関係を保てるような対応もさせて頂いています。

今後の動きとして、2年後に迫ったHACCPの制度化に伴い、危機管理の仕組みの構築を進めています。枝肉の仕入先及びカット委託先は既にHACCPに対応しており、本会が対応することで一連の流通がHACCPに対応し、“安心”をより強固なものにできると考えています。

県内の畜産農家の戸数は、後継者不足によって廃業が進み、年々減少傾向の一途をたどっています。中には後継者が後を継ぎ精力的に経営されている農家さんもいらっしゃいますが、どんなに優良な生産技術・設備を有していても、“売れない”“儲からない”となれば、畜産の魅力はどんどん薄れていくと思います。本会としては、県内の生産者が大切に育てた牛や豚を、いかに消費者にとって魅力的なものにするか、いかに売れる商品にするかを目標テーマとして出口対策を強化していきたいと考えています。出口が活気づけば、自然と生産者までその流れが届き、産地の活性化につながると信じています。

最後に、TPP11や日欧EPAの発効によって安価な輸入肉の流入がますます加速することが懸念されますが、本会としては県内産商品にさらに付加価値をつけることで、輸入肉との価格差以上の魅力を出したいと考えています。常に消費者の目線に立って、どうしたら安価な輸入肉ではなく県内の生産者が生産した商品を手に取ってもらえるかを意識し続け、岡山県の畜産の発展に微力ながら貢献できればと考えています。

北海道乳牛市場の初妊牛価格の推移

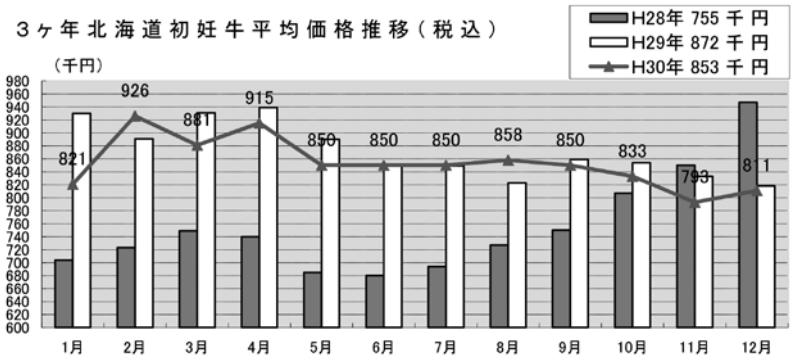
おかやま酪農業協同組合事業本部流通課

１）はじめに

平成30年度は列島を縦断する台風や７月の西日本豪雨、９月には北海道胆振地震が発生し、多くの方々が被災されました。

また、昨年は大手企業の免震装置のデータ改ざんや、自動車メーカーの役員報酬を巡る社会的責任が大きく問われた１年となりました。

北海道の初妊牛価格におきましては、平成29年に比べ、若干価格は下がったものの、引き続きメガ・ギガファームの導入などの影響で高値にて推移しました。(853千円)



２）最近の北海道乳牛産地情報について

釧路管内（今月相場85～95万円）

２月の初妊牛動向は、４月～５月腹中心での荷動きとなります。乳牛市場では上場頭数も増え軟調傾向ではあるが、春産みの需要も多い事から価格は横這い以上で推移するものと予想されます。

帯広管内（今月相場87～97万円）

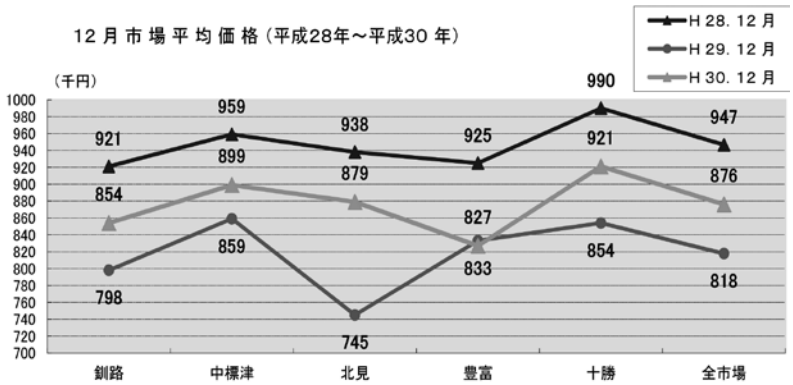
４月～５月分娩の春産みが中心となります。帯広管内は、資源が例年より増加傾向にあるが、価格については12月・１月の乳牛市場が強含みで推移したため、２月についても同様強含みで動くものと予想されます。

道北管内（今月相場80～85万円）

４～5月分娩が中心となります。道北管内の乳牛市場では頭数の増加もあり価格の変化があまり見られませんでした。しかし、春産み需要が多い時期となることから、中クラス以上の初妊牛については80万円台後半となる可能性もあります。全体に雌雄判別腹が多く、引合いが強いＦ１腹が若干少ないことから強含みで動くことも予想されます。

道内総括（今月相場85～95万円）

４～５月分娩が中心となります。ここ数年、道内の乳牛市場頭数については、育成牛は前年を上回り、初妊牛は前年を下回って推移しておりましたが、今年度については、育成牛、初妊牛ともに上回って推移しております。資源状況と致しましては、前年並み以上に確保できるものと思われます。今後の価格については、道内外の生産意欲も高く春産み需要もある事からやや強含みで推移するものと予想されます。



県産豚肉の地域ブランド化に向けて

(一社)岡山県畜産協会

１　はじめに

昨年、12月30日にＴＰＰ11が発効し、続く２月１日にはＥＵとのＥＰＡも発効しました。特に、後者は品目の中にＥＵにとって競争力の高い乳製品や豚肉が含まれており、輸入の増加による国内生産や価格への影響が懸念されています。一方、本県で生産される豚肉はその３分の２が県内に出荷、消費されており、県内の消費者に魅力をＰＲし、消費につなげることが生産を支えるカギと考えます。県内では、差別化した豚肉生産が広がっており、これにあわせた取組が求められています。

県内の生産者が中心となって組織する「岡山県養豚振興協会」では、肉質、特に消費者にも支持されるおいしさを念頭に、県産の特徴の把握や改善技術の検討を進めています。今回は、その一環として昨年10月に開催した研修会の概要を紹介します。

２　養豚研修会について

養豚振興協会では、年に２回の研修会を開催していますが、本年度２回目の研修会は「地域ブランド豚の振興」をテーマに、岡山県営食肉地方卸売市場において31名の参加のもと開催しました。この研修会では枝肉格付やと畜検査の情報提供とともに、全農ミートフーズ㈱の取組を同社営業第２課の桑田先生から紹介していただきました。あわせて豚肉の試食会を開催し、参加者の五感を通じて県内産を含む３種類の豚肉の特徴を評価しました。その後、県産豚肉のブランド化をどのように進めていくか、講師や参加者を交えて意見交換しました。研修会には、養豚振興協会の会員に加え、豚肉の処理加工業者や流通関係者等の方々にも参加いただき、生産から処理・加工、流通の幅広い目で評価や意見交換を行いました。

３　試食会について

(1) 試食した豚肉の銘柄は、①県内産豚肉Ａ（三元交雑の止め雄に黒豚を使い、飼料米やパン屑を給与)、②県外産豚肉（指定農場で生産し、お茶を給与)、③県内産豚肉Ｂ（おかやまコープと共同開発、飼料米を給与）でした。

(2) 試食は男性20人、女性６人の計26人により、銘柄を伏せてしゃぶしゃぶで試食し、販売価格は考慮せず、試食した豚肉の８つの特徴を５段階で評価してもらい、特徴ごとに豚肉の銘柄と評価者を要因として二元配置分散分析を行いました。

(3) 試食の評価は、豚肉の銘柄による差は少ないものの、それぞれに特徴が認められました。その中で、「脂肪の色」と「柔らかさ」に銘柄間に差があり、銘柄の比較では、①は「柔らかさ」「ジューシー感」「甘味」、②は「脂肪の色」、③は「赤肉の色」「うまみ」について好ましいとする評価が高い結果でした。

４　今後の取組について

県産豚肉の地域ブランド化は喫緊の課題と考えます。畜産協会では、引き続き生産者や流通関係者の方々と連携し、県内消費につながる品質改善や生産性向上について、研修会やＰＲ活動等の取組を強化していく計画です。

本稿読者の皆様には、是非、県産豚肉のご賞味をお願いします。

家畜衛生管理センターの死亡牛搬入状況及び死亡牛のBSE検査対象牛の変更について

（一社）岡山県畜産協会

家畜衛生管理センターは、県が死亡牛のBSE検査集荷採材施設として、久米郡美咲町（畜産研究所内）に整備し、死亡牛の受け入れ、保管等BSE検査以外の管理運営を当協会が受託しています。

平成28年度からの死亡牛の搬入状況は下表のとおりで、今年度は夏の平均気温が異常に高かったことや不順な天候などの影響もあり、７月～９月の死亡牛は179頭で、昨年の156頭に比較して115％に増加しています。しかし、秋口から平年の気温に戻ったため、今年度の12月までの死亡牛頭数は375頭で、昨年度の382頭に比較して98％で推移しています。

平成30年度の死亡原因は、肝炎29％、心不全26％、乳房炎８％、ダウナー症候群８％、その他、肺炎、熱射病、牛白血病などです。

また、平成31年度から死亡牛のBSE検査対象牛は、96か月令（８歳）以上及び48か月令（４歳）以上の起立不能牛等に変更されますので、関係者の方は対応方よろしくお願いします。

〔搬入牛頭数〕　（単位：頭）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
H28	26	28	30	44	57	39	43	30	40	26	32	36	431
H29	33	39	27	53	64	39	36	50	41	45	28	40	495
H30	27	37	37	68	58	53	36	32	27	－	－	－	375

＊死亡牛受付日　正月（１月１日～３日）を除き毎日取り扱っています。

●電話受付　8：30 ～ 12：00　　TEL0867－27－3101　FAX0867－27－3102

●搬入受付 10：00 ～ 15：00　　担当：佐々木、岡田

〔お知らせ〕

平成30年度和牛シンポジウムの開催について

和牛シンポジウム実行委員会では下記のとおり平成30年度和牛シンポジウムを開催します。多数のご参加をお待ちしております。

１　テ ー マ：『和牛経営のこれから　～求められる子牛とは～』

２　開催日時：平成31年3月15日（金）

受　付：12時00分～

講演等：12時30分～ 15時40分

※昼食は済ませておいでください。参加料は無料です。

３　会　　場：グリーンヒルズ津山　リージョンセンター　ペンタホール

津山市大田920　TEL：0868－27－7150

４　講 演 等：

Ⅰ　講　　演「肥育農家が求める子牛生産」

ルーメン家畜診療所　獣医師　佐々　隆文　先生

Ⅱ　パネルディスカッション

※“求められる子牛”をテーマに肥育農家と会場の皆さまとの意見交換会を企画しています。

※お問合わせ先：和牛シンポジウム実行委員会（事務局：一社・岡山県畜産協会）

TEL：086－234－5981

平成30年度岡山畜産便り総目次

タイトルのあとの数字の太字は発行月、（　）内はページを示す。

●特集
◇平成30年度県、農業団体重点施策（畜産課、農業共済連等）… **6**(2)
◇畜産クラスターに係る全国実態調査結果について（協会）… **8**(10)
◇女性の視点から考える
　誰もが働きやすい畜産経営の職場づくり（協会）…… **1**(3)
●畜産課ページ
◇岡山県における酪農振興施策について…… **8**(1)
◇岡山県の肉用牛振興施策について ……**10**(1)
◇農場バイオセキュリティ向上対策について …… **1**(9)
◇耕畜連携による飼料用トウモロコシの推進について …… **2**(1)
●県民局便り
◇備中県民局管内の畜産クラスター取組状況
　（備中県民局畜産第一班）…… **4**(2)
◇酪農から肉用牛繁殖への経営転換に注目!
　（美作県民局畜産第二班）…… **6**(15)
◇新牛舎完成!ゆとりある酪農の実現と生産性向上を目指して
　（備前県民局畜産班）…… **8**(3)
◇備中局管内の乳用牛預託育成牧場
　（備中県民局畜産第一班）……**10**(3)
◇美作県民局　空き牛舎バンクを設立しました!
　（美作県民局畜産第一班、第二班） …… **1**(11)
◇耕畜連携による飼料用トウモロコシの生産・利用を推進中!
　（美作県民局畜産第一班）…… **1**(12)
◇東備地域の畜産を盛り上げています（備前県民局畜産班）… **2**(3)
●家保のページ
◇労力低減に主眼を置いたワンショット過剰排卵処置方法の検討
　（津山家畜保健衛生所）…… **4**(4)
◇牛白血病清浄化への取組み事例について
　（岡山家畜保健衛生所）…… **6**(11)
◇豚の日本脳炎について（井笠家畜保健衛生所） …… **8**(5)
◇豚コレラが26年ぶりに国内発生!中国ではアフリカ豚コレラが
　続発中!!（高梁家畜保健衛生所） ……**10**(5)
◇農場HACCP認証に向けて（真庭家畜保健衛生所） …… **1**(13)
◇初期症状に脱毛が見られた黒毛和種子牛のビタミンA過剰症
　（津山家畜保健衛生所）…… **2**(5)
●共済連だより（家畜診療日誌）
◇真庭家畜診療所（影山毅）…… **8**(7)
◇西部基幹家畜診療所（水戸康明）……**10**(7)
◇生産獣医療支援センター（金子愛弥） …… **1**(15)
◇生産獣医療支援センター（西山篤） …… **2**(7)
●技術のページ（畜産研究所）
◇新たな岡山県基幹種雄牛の紹介（育種改良研究グループ）… **4**(6)
◇平成30年度　畜産研究所の主な試験研究課題について
　（企画開発グループ） …… **6**(13)
◇牛群検定成績を利用した泌乳平準化の状況解析
　（飼養管理研究グループ） …… **8**(8)
◇ICTによる繁殖管理について（生産性向上研究グループ）…**10**(8)
◇ウシからの採卵技術の改良（繁殖システム研究グループ）… **1**(16)
◇混合堆肥複合肥料の普及に向けた取り組み
　（環境研究グループ） …… **2**(7)
●共済フレッシュさんの声
◇守屋ひか理 ……**10**(10)
◇椿修…… **2**(10)
●畜産現場の声
◇おいしい豚肉づくりを目指して（新田善洋） …… **4**(8)
◇酪農から和牛繁殖へ（福島章晴） …… **6**(17)
◇Uターン就農（小橋敏行） …… **8**(16)
◇うちにしかできない卵を（（有）新見ポートリーファーム）……**10**(11)
◇西山へ移住して（（農）西山維進会　青木日向） …… **1**(18)
◇これまでとこれから（高山和夫） …… **2**(9)
●畜産女性の声、消費者の声、流通業界の声
◇雑感（井家上淑子）…… **4**(9)
◇心身の健康に欠かせない「食肉の役割」
　（ノートルダム清心女子大学小山洋子） ……**10**(13)
◇私たちにできること（全農岡山県本部畜産部食肉販売課）　**2**(11)
●酪大だより、農大生のプロジェクト研究紹介、教育現場の声
◇第52期生が卒業しました。（中国四国酪農大学校） …… **4**(1)
◇第54期生が入学しました。（中国四国酪農大学校） …… **6**(1)
◇大規模和牛繁殖経営における母牛モニタリング方法の検討
　（農業大学校金平輝久）…… **6**(21)
◇興陽高校における畜産教育（興陽高等学校） …… **8**(17)
●ふるさとメッセージ、県OBの声
◇健康が一番と思う今日この頃（若田茂） …… **1**(19)
●巻頭コラム
◇新年にあたって（樋口義男） …… **1**(1)
◇年頭の挨拶（菱川雅弘）…… **1**(2)
●お知らせ、Q&Aコーナー
◇肉用牛肥育経営安定特別対策事業の補填率が
　平成30年度、8割から9割に引き上げられます …… **4**(19)
◇知って得する鳥獣害対策 …… **6**(20)
◇平成31年度入学　農業大学校学生募集概要
　（岡山県農業大学校）…… **6**(23)
◇平成31年度学生募集・オープンキャンパス
　（中国四国酪農大学校）…… **6**(24)
◇ICTを活用した収穫作業管理支援システムの意見交換会 … **8**(18)
◇岡山県養蜂組合連合会の取組について
　養蜂の現状と課題を鈴木会長に聞く……**10**(15)
◇牛ウイルス性下痢・粘膜病のPI牛とう汰に
　助成金が支払われます! ……**10**(16)
◇豚コレラ・アフリカ豚コレラの侵入防止対策を徹底する!! …… **1**(22)
◇家畜衛生研修会の開催について …… **1**(25)
◇県産豚肉の地域ブランド化に向けて …… **2**(13)
◇平成30年度和牛シンポジウムの開催について …… **2**(14)
●ホットニュース
◇（有）カーライフフジサワが農林水産省生産局長賞を受賞… **4**(10)
◇平成29年度耕畜連携推進研修会を開催しました。 …… **4**(10)
◇株式会社卵娘庵にて農業高校生と交流会を開催しました!… **4**(11)
◇第53回豚枝肉共励会開催報告…… **4**(11)
◇安富牧場で「小さな酪農家のまじめな牛乳」の
　販売が始まります! …… **8**(15)
◇農場HACCP認証マークが7月4日から畜産製品へ
　貼付できるようになりました! …… **8**(19)
◇農場HACCP認証制度研修会のご案内 …… **8**(21)
◇平成30年度おかやまフォーベルネット総会・研修会が
　開催されました!! ……**10**(12)
◇第58回岡山県農林漁業近代化表彰受賞……**10**(17)
◇有限会社　安富牧場が農林水産大臣賞を受賞 …… **1**(24)
◇平成30年度畜産経営指導従事者研修会開催される …… **1**(24)
●その他
◇岡山県、農業団体等の畜産関係者名簿 …… **4**(12)
◇繁殖コンサルタント（おかやまETクリニック　篠田剛）…… **6**(18)
◇（公財）中国四国酪農大学校第1牧場（ホルスタイン種）が
　県内2例目となる農場HACCP認証農場に認定されました!… **6**(19)
◇枝肉市況…… **8**(20)
◇生乳検査NOW:H30年度上期 …… **1**(20)
◇北海道乳牛市場の初妊牛価格の推移…… **2**(12)
◇家畜衛生管理センターの死亡牛搬入状況及び死亡牛の
　BSE検査対象牛の変更について …… **2**(14)

取扱品目のあらまし

動物用ワクチン・血清類一切,獣医畜産用薬品全般

家畜・家禽の飼料添加剤各種,獣医畜産用器具機械類

衛生材料(ガーゼ・脱脂綿・繃帯・その他)

土壌関係検査測定器具・試薬

JYUCHIKU Co. Ltd.

株式会社 ジュウチク

岡山市北区奉還町4-4-11 岡獣ビル内　TEL 086-214-2288
FAX 086-214-2287

岸化学グループ

株式会社　正和　代表取締役　岸　小三郎

岡山本社	〒712-8055	岡山県倉敷市南畝1丁目13番1号	TEL 086（450）3807 FAX 086（450）4008
広島事業所	〒738-0513	広島県佐伯区湯来町大字伏谷字今山137番58	TEL 0829（40）5177 FAX 0829（40）5178
福山事業所	〒729-3102	広島県福山市新市町相方1089-19	TEL 0847（54）2007 FAX 0847（54）2008
鳥取事業所	〒680-0906	鳥取県鳥取市港町51番地	TEL 0857（50）1736 FAX 0857（50）1738
津山事業所	〒708-1544	岡山県久米郡美咲町周佐1377-4	TEL 0868（62）1232 FAX 0868（62）1233

取扱品目

- 死亡牛・死亡豚他の処理
- 有機性汚泥
- 廃食油
- 動植物性残渣
- 医療廃棄物

メディパルグループ

MPアグロは
「安全・安心・安定供給」
を追求します

●安全な畜水産物の生産をサポートし、
獣医療の発展と食の安全・安心に貢献します。

MPアグロ株式会社

本社　〒061-1274　北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13
TEL　011(376)3860　FAX　011(376)3450

岡山支店　〒709－2122　岡山市北区御津吉尾1－1
TEL　086-724-4880　FAX　086-724-4889
東京本部・岡山オフィス・福岡オフィス
札幌・函館・旭川・帯広・北見・釧路・東京・青森・秋田・盛岡・山形・仙台
岡山・広島・山口・鳥取・島根・松山・宇和島・高松・徳島・大阪第一・大阪第二・兵庫
福岡第一・福岡第二・熊本・宮崎・鹿児島・鹿屋
札幌物流センター・帯広物流センター・盛岡物流センター・御津物流センター・福岡物流センター
AHSC西日本・AHSC九州
＊AHSCはアニマルヘルスサポートセンターの略称です

株式会社 アスコ
http://www.asco.sala.jp

国内広域展開の動物用医薬品ディーラー
人と動物の健やかな共生環境づくりに貢献します

本 社

〒441-8021
愛知県豊橋市白河町100番地
TEL 0532-34-3821
FAX 0532-33-3611

営業所
所在地

・東日本支店
児玉、前橋、松本、旭、茨城、栃木
東京、大宮、宮城、福島
・中日本支店
豊橋、安城、浜松、沼津、岐阜、名古屋
・西日本支店
広島、福山、山口、米子、岡山
大阪、京都

OHAYO

岡山県産　生乳100%使用

晴れの国 おかやま牛乳

©岡山県「ももっち」

岡山県産の牛乳を100% 使用した牛乳です。
岡山県下、各地域から集乳した生乳を
使用しました。

www.ohayo-milk.co.jp　オハヨー乳業株式会社

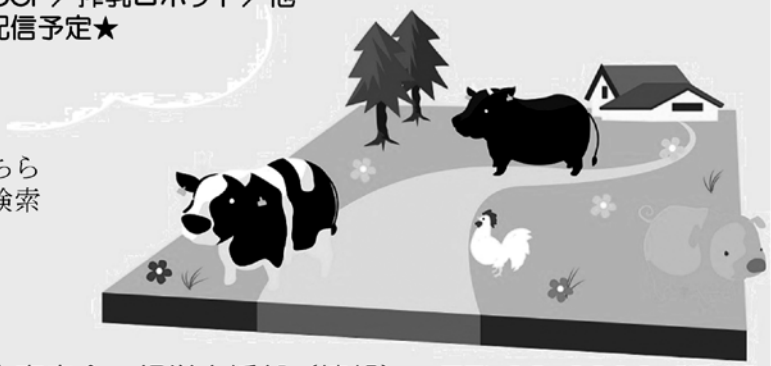
（公社）中央畜産会からのお知らせ

畜　産　映　像　情　報

がんばる！畜産！2

畜産現場の“今”を30分の番組にしました！
各種研修会、セミナーにも！

配信中の内容：IoT技術の活用／農場HACCP／搾乳ロボット／他
★安富牧場（岡山市）取材番組を３月に配信予定★



◂スマートフォンからはこちら
▾パソコンからはこちらで検索

がんばる畜産

お問合せ：（公社）中央畜産会　経営支援部（情報）　TEL03-6206-0846

高 知 競 馬 開 催 案 内

地方競馬の収益金の一部は国内の畜産振興に役立てられています。

岡山県馬事畜産振興協議会（事務局　岡山県畜産協会）は、平成31年３月４日（月）に高知競馬場において、「吉備の温羅特別競走」を開催します。

2　月								3　月							
開催日			備　考	開催日			備　考	開催日			備　考	開催日			備　考
1	金			17	日	○	ナイター	1	金			17	日	○	ナイター
2	土			18	月			2	土			18	月		
3	日	○	ナイター	19	火	○	ナイター	3	日	○	ナイター	19	火		
4	月			20	水	○	ナイター	4	月	○	ナイター	20	水	○	ナイター
5	火	○	ナイター	21	木			5	火	○	ナイター	21	木	○	ナイター
6	水	○	ナイター	22	金			6	水			22	金		
7	木			23	土			7	木			23	土		
8	金			24	日	○	ナイター	8	金			24	日		
9	土			25	月			9	土			25	月		
10	日	○	ナイター	26	火	○	ナイター	10	日	○	ナイター	26	火		
11	月	○	ナイター	27	水	○	ナイター	11	月	○	ナイター	27	水	○	ナイター
12	火			28	木			12	火	○	ナイター	28	木	○	ナイター
13	水	○	ナイター					13	水			29	金		
14	木							14	木			30	土		
15	金							15	金			31	日	○	ナイター
16	土			ナイター（15:30～20:50）				16	土			ナイター（15:30～20:50）			

あとがき

今年度、当協会の職員が『海外畜産事情研修』に参加した。中央畜産会が地方競馬全国協会の支援を得て十数年ぶりに開催したものである。約2週間の日程でフランス、イギリス、デンマーク、ドイツを視察した。

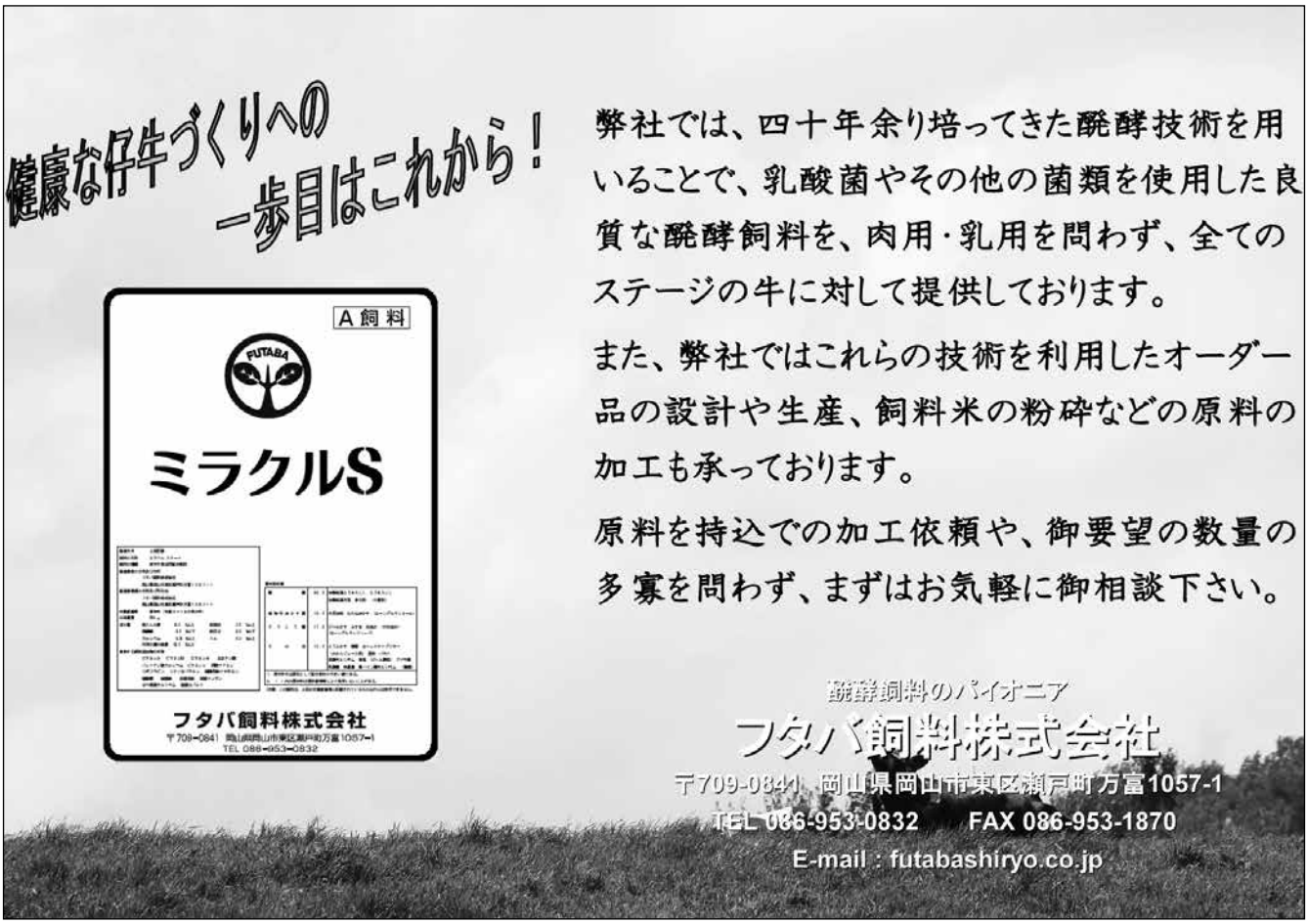
（以下に感想を記す）

どの国も乳価や肉代は低くおさえられ、酪農後継者不足による家族経営の減少で法人化への移行が進んでいる。日本と事情が同じであった。しかし飼育する頭数に応じて一定の牧草地面積が課せられるため耕作放棄地はほとんど無い。また畜産農家は補助に頼るだけでなく自助努力も重ねる。例えば自然条件に適した品種を選定したり、チーズなどの六次化や耕種、太陽光、バイオガスなどとの複合経営を工夫したり。消費者も食や動物に対する意識が高く、国を挙げてオーガニック農業を推進しているとのことである。

職員は、「現地の生の声を聞き、多様な食文化を体感することで、日本の畜産を俯瞰することができた。」と熱く語る。私も四半世紀前にスイスを視察し、本場の酪農に触れて衝撃を受けたことを今思い出す。「百聞は一見にしかず」視察によって得た経験は今後必ずや生かされるものと期待している。

岡山畜産便り　2月号（冬季号）

第70巻　第2号（通巻679号）
平成31年2月25日発行
定価250円（消費税・送料含）

発行人　樋口義男　　編集人　柴田範彦
発行所　**一般社団法人　岡山県畜産協会**
〒700-0826　岡山市北区磨屋町9-18　岡山県農業会館5階
TEL 086－222－8575　FAX 086－234－6031
印刷所　ノーイン株式会社

岡山畜産だより　平成三十一年二月号（冬季号）
（第七十巻第2号通巻六七九号）
平成31年2月25日発行
岡山市北区磨屋町九―十八　岡山県農業会館
発行所　岡山県畜産協会
定価　一部　二五〇円（送料共）
年間　一五〇〇円（送料共）